

高学年分科会 (対象：5年2組18名)

1 分科会提案

(1) 目指すよい学習像

高学年分科会第5学年の目指すよい学習とは、「自分の学びの現在地が分かっている」ことである。児童自身が目指すゴールが明確になっており、その上で何が足りなくて、何を学ぶ必要があるのかが分かっている状態にあることが、自らの学びを見直し、学び続ける力になると考えた。

(2) 「よい学習」実現するための手だて

① 明確なゴール設定

他者との「対話」は、自らの考えを明確にするために必要である。今回の授業では、第1次で文章の構造の理解、要旨をまとめることを学習のめあてとする。第2次では、筆者の考えを基にしてこれまでの生活の中での「言葉の使い方」を考えていく。普段使っている言葉がどのように使われているのかを経験と重ねながら考え、言葉の広がりについてのクイズ作りを行う。友達とのクイズ作りの中で自らの「言葉について」の考えを深めていくねらいがある。

② 学びを振り返るための足跡を残す

何を学び、何を次に生かすかを振り返り、足跡としてまとめていく。学びの過程を可視化することで児童一人一人の学びの現在地を明確にしていく。

2 単元名「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」

教材名「言葉の意味が分かること」(光村図書 国語5年)

3 教材観

練習教材「見立てる」と本教材「言葉の意味が分かること」の2つの教材は、ものの見方の特徴について書かれており、筆者の考えが「初め」と「終わり」に示されている双括型の文章となっている。「見立てる」で段落構成や事例に着目して文章の要旨をまとめ、「言葉の意味が分かること」の学習につなげていく。

また、文章中の表現では、「言葉の意味には広がりがある」「言葉の意味のはんい」「言葉の意味を『点』として考える」「言葉の意味を『面』として考える」など、筆者独特な言葉が使われている。それぞれの言葉の意味をしっかりと押さええながら、言い換えられている言葉がどう結び付いているのか注意して読み進めていく。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)オ	・文章を読んでまとめたことを共有し、自分の考えを広げようとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア ・語句の係り方や語順、文と文との接続関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴を理解している。(1)カ	・「読むこと」において、文章全体の構成を捉え、要旨を把握している。C(1)ア ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、クイズを作っている。C(1)オ	・文章の構成を捉えて要旨を把握し、考えたことを伝え合おうとしている。

5 児童の実態

「銀色の裏地」の学習では、初発の感想や疑問をもってから学習を始めた。初発の感想や疑問を踏まえた上で、自分たちが考えたゴールに向かって、文章を読んで感じたことを他の人と伝え合ったり発表したりすることに対しては、意欲的に取り組む児童がほとんどであった。しかし、学習に対してつまずきが見られたとき、それを解決しようとする意欲が低い児童が一定数いる。そのため、児童が自分の学んだことや身に付けたことを他の人と共有し、学びを自覚できるように、グループ（トリオ）に分かれて学習を進めていく。友達との関わりの中で自分の考えを深めたり、広げたりする児童の姿を目指したい。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
1次	1	① 「見立てる」を読んで、段落構成や事例に着目する。 ② 文章の要旨をまとめる。	・これまで学んだ学習用語を確認し、要旨の意味を理解できるようにする。 ・繰り返し出てくる言葉や、筆者の考えが書かれた段落を中心に、要旨をまとめられるようにする。 ◆文章全体の構成を捉え、要旨を把握している。 【思】☆記述
2次	2	③ 「言葉の意味が分かること」を読んで、問いをもつ。 ④ 学習計画を立てる。	・自分の経験と結び付けて、共感したり疑問に感じたりする問いをもてるようにする。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて構成と内容を確認、要旨を捉えやすくする。
	3	⑤ 文章を内容のまとめりごとに整理して内容を捉え、文章構成について考える。	◆文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。【知】☆記述・発言
	4	⑥ 文章の要旨をまとめる。	・まとめることが難しい児童には要旨をまとめるときの観点を示し、それがどの言葉や文にあたるかをいくつか具体的に示す。 ◆文章全体の構成を捉え、要旨を把握している。 【思】☆記述

	5・6	<p>⑦ 3つの事例を見付け、筆者の考えとの結び付きを考える。</p> <p>⑧ 事例について、原因とその結果という関係で整理する。</p>	<p>・筆者特有の表現が何を伝えているのか、自分の言葉で言い換えることにより、筆者の考えと事例の結び付きが分かりやすくなるようにする。</p> <p>◆原因と結果など情報と情報との関係について理解している。【知】☆発言・記述</p>
3次	7 (本時)	<p>⑨ 文章で読み取ったことを基に、クイズを作る。</p>	<p>・筆者の考えや3つの事例をもとにクイズを考えられるようにする。</p> <p>◆文章を読んで理解したことに基づいて、クイズを作っている。【思】☆記述・発言</p>
	8	<p>⑩ クイズを発表する。</p> <p>⑪ 学習を振り返る。</p>	<p>◆文章の構成を捉えて要旨を把握し、考えたことを伝え合おうとしている。【主】☆態度・観察</p>

7 本時の学習(7/8時間目)

(1) 目標

筆者の考えや事例をもとに、クイズを作る。

(2) 展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (10分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	・言葉には広がりがあるということを理解できるように問題作りをさせることで、児童の主体性を引き出す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">言葉の意味は面であるクイズを考えよう。</div> ○「言葉の意味は面である」とはどういうことか確認する。	・自分たちが考えた要旨を振り返れるようにする。
展開 (30分)	○教師から出題された「言葉の意味は面である」クイズに答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で起こりうる言葉の言い間違いをいくつか準備する。 ・児童がクイズを作りやすくするために、教師から例題を出す。 ・答えに対して、なぜそれを選んだのか理由も答えられるようにする。 ・「言葉の意味が面である」ことが分からなくなったとき、教科書やワークシートで3つの事例を振り返ったり筆者の考えを確認したりできるよう声を掛ける。 ・出題者は、いろいろな答えを想定しておくように声掛けをする。 ・一人では事例が思い浮かばない児童のために、トリオグループで対話しながら学習を進められるようにする。 ・同じ読み方の言葉や意味を調べるために、国語辞典やクロムブックを使ってよいこととする。 ・クイズが思い浮かばないグループがある場合は、学習活動を止め、多く作っているグループのクイズを紹介する。
	○クイズの作り方を確認する。	
	○トリオでクイズを考える。	
	○考えたクイズを紹介する。	◆文章を読んで理解したことに基づいて、クイズを作っている。【思】☆記述・発言
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。	・本時の学習のめあてに対する振り返りをさせ、学んだことや気付いたことを発表させる。 視点＝クイズを作って気付いたこと

(3) 具体的な児童の姿と目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要すると判断した児童(C)への 具体的な手だて
文章を読んで理解したことに基づいて、クイズを作ることができる。	筆者の3つの事例をもとにクイズを作ることができる。	教師がヒントカードを準備し、それに基づきクイズを考えさせる。

(4) 修正した本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (10分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	・言葉には広がりがあるということを理解できるように、問題作りをさせることで、児童の主体性を引き出す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">「言葉の意味は面であるクイズ」を考えよう。</div> ○「言葉の意味は面である」とはどういうことか確認する。	・自分たちが考えた要旨を振り返れるようにする。
展開 (30分)	○教師から出題された「言葉の意味は面である」クイズに答える。	・日常生活で起こりうる言葉の言い間違いをいくつか準備する。 ・児童がクイズを作りやすくするために、教師から例題を出す。 ・答えに対して、なぜそれを選んだのか理由も答えられるようにする。 ・「言葉の意味が面である」ことが分からなくなったとき、教科書やワークシートで3つの事例を振り返ったり筆者の考えを確認したりできるよう声を掛ける。 ・出題者は、いろいろな答えを想定しておくように声掛けをする。 ・一人では事例が思い浮かばない児童のために、トリオグループで対話しながら学習を進められるようにする。
	前時までに授業中に挙げた事例を掲示し、参考にしたり、その中から選んだりできるようにする。 ○クイズの作り方を確認する。 ○トリオでクイズを考える。	・答えに対して、なぜそれを選んだのか理由も答えられるようにする。 ・「言葉の意味が面である」ことが分からなくなったとき、教科書やワークシートで3つの事例を振り返ったり筆者の考えを確認したりできるよう声を掛ける。 ・出題者は、いろいろな答えを想定しておくように声掛けをする。 ・一人では事例が思い浮かばない児童のために、トリオグループで対話しながら学習を進められるようにする。 ・ <u>同じ読み方の言葉や意味を調べるために、国語辞典やタロムブックを使ってよいこととする。</u>
	より考えを深めるため、グループでクイズを作る前に、自分でクイズを作る時間をとるようにする。	・ <u>同じ読み方の言葉や意味を調べるために、国語辞典やタロムブックを使ってよいこととする。</u>
	○考えたクイズを紹介する。	同音異義語が、「言葉の意味は面である」と言えるかどうか、本文を読み返して確認させるようにする。 ・クイズが思い浮かばないグループがある場合は、学習活動を止め、多く作っているグループのクイズを紹介する。 ◆文章を読んで理解したことに基づいて、クイズを作っている。【思】 ☆記述・発言
	クイズが思い浮かばない児童のために、教師がヒントカードを準備し、それを基にクイズを作るように声掛けをする。	
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。	・本時の学習のめあてに対する振り返りをさせ、学んだことや気付いたことを発表する。 学び方に対するプロセスを振り返られるように、「友達と話して気付いたこと」「分かったこと」「次に生かしたいこと」といった視点を示す。

8 板書計画

<p>言葉の意味が分かること 今井 むつみ</p>	<p>言葉の意味は面であるクイズを考えよう。</p>	<p>言葉の意味は面である ↓言葉には広がりがある ↓はんいを理解する必要がある</p>	<p>クイズ 一</p>	<p>問題 おばあちゃんに、「はきものを持ってきてほしい。」と言われまして。いつもはいているサンダルを持っていったら、「そのはきものじゃない。」と言われました。それは、なぜでしょう。</p>	<p>答え ・色がちがうサンダルをもってきてほしかったから。 ・ほうきのようなはきものがほしかったから。 ・ズボンのようなはきものがほしかったから。 ・はきものの中にも、他に種類がたくさんあるから。</p>	<p>【ふり返り】 ・クイズを作ったこと ・気付いたこと ・次に生かしたいこと</p>
---------------------------	----------------------------	--	--------------	---	---	---

9 机間指導の目的(◎)と言葉掛け(・)

- ◎ 話し合いを進めるために
 - ・ コップの例を挙げて考えてみたけれど、他に思いつくものはありますか。
 - ・ これまで考えてきた例を使って、クイズを作ってみましょう。
 - ・ 黒板に書いている例を見てみましょう。
 - ・ この中から選んで、クイズを作ってみましょう。
- ◎ 言葉の意味を面でとらえるために
 - ・ 言葉の意味は面であるとは、どういうことでしたか。
 - ・ 黒板を見て、言葉の意味は面であるということを確認しましょう。
- ◎ 問題作りをするために
 - ・ 書き始めを一緒に考えてみましょう。
 - ・ この文章に続く言葉を考えてみましょう。
 - ・ 「～でしょうか。」でまとめられるように、文章を考えてみましょう。
- ◎ 話し合いが活発に行われている時にさらに発展させるために
 - ・ 言葉の意味は面であるクイズが作れていますね。
 - ・ 言葉には広がりがあると言えるクイズですね。
 - ・ 他にもクイズを作ってみましょう。
 - ・ 他にも言葉が面であると言えるクイズを作ってみましょう。
 - ・ 答え方を選択肢に変えてクイズを作ってみましょう。